



様式第6号 (会派用)

### 政務活動実施報告書

平成30年6月11日

村上市議会議長 様

会派名 鷲ヶ巣会

代表者氏名 板垣一徳



当会は、下記のとおり政務活動を終了しましたので報告します。

	代表者 確認印		経 理 責任者 氏名印	渡 辺 昌	
用 務 名	(1) 森林資源を活用した地域活性化について (2) 地域振興への道の駅の在り方について				
実 施 日 時	平成30年 6月 6日 (水) 午後1時30分 ~ 3時30分 平成30年 6月 7日 (木) 午前9時30分 ~ 11時30分				
用 務 先	(1) 栃木県那珂川町 「県北木材協同組合・株式会社トーセン」 (2) 宮城県大崎市 「あ・ら・伊達な道の駅」				
参 加 議 員 名	板垣一徳 大滝国吉 小田信人 鈴木いせ子 本間善和 河村幸雄 渡辺 昌				
全 体 参 加 者 数	7 名				
概 要 及 び 所 見	※記載欄が不足する場合は別葉に記載すること。 (別紙参照)				
備 考					

概要及び所見	<p>(1) 森林資源を活用した地域活性化について</p> <p>栃木県那珂川町 「県北木材協同組合・株式会社トーセン」</p> <p>県北木材協同組合を運営する株式会社トーセンは、間伐され山に捨てられていた森林未利用材(林地残材)を木質バイオマス発電・熱利用事業の熱源として利用することで、地域周辺での産業と雇用を生む循環型社会を目指した「那珂川モデル」と呼ばれる取り組みを行っている。</p> <p>廃校となった中学校跡地を利用し平成24年から稼働する製材工場は、年間生産能力 15,000 m<sup>3</sup>で、間伐材を利用した無垢間柱や集成材の原料を生産している。製材利用できないものや製材過程で発生する端材などは、隣接した木質バイオマス発電所で燃料として使われ、発電規模は2,500kwで、木質チップを年間5万t使用し、約5千世帯分の電気が売電されているという。</p> <p>また、地域熱利用事業として、熱利用ボイラーの設置で地元産業へ木質バイオマス熱が供給され、マンゴー栽培や鰻養殖が行われている。</p> <p>そのほか、地域の方に製材に向かない森林未利用材を集荷してきてもらう「木の駅プロジェクト」により、相場以上の金額で、地元の登録商店で利用可能な地域通貨で買い取ることで、森林整備だけでなく地域経済の活性化につながっているとのことである。</p> <p>森林資源が豊富な本市でも、その有効活用による林業の再生が大きな課題である。大切な木材資源を無駄なく最後まで使い切ることによる「新たなビジネスモデル」に感心するとともに、本市の立地環境からも十分可能な取り組みであり、大いに参考とすべきものであると強く認識した。</p> <p>(2) 地域振興への道の駅の在り方について</p> <p>宮城県大崎市 「あ・ら・伊達な道の駅」</p> <p>あ・ら・伊達な道の駅は地域振興につながる取り組み等が評価され、26年度に国土交通省の定める「重点道の駅」に認定されている。また、昨年3月には増加する来場者に対応するため、道の駅の建物を挟んで新たに駐車場を整備し、大規模な屋外トイレも設置された。</p> <p>年間約 350 万人の来場者があり、リピーター率は 78%で、仙台圏から比較的近い距離にあることから、地元産の新鮮な農産物等を求めて足を運ぶ方が多いことや、市町村合併前の旧岩出山町がチョコレートで有名な「ロイズ」と関わりのある北海道当別町と姉妹都市であることが縁で、施設内にその売店が設置されており、「ロイズ」の知名度や、一人あたりの購入単価が高いことなどもあり、道の駅の来場者数や売上額に大きく貢献しているものと思われる。また、高速道路のサービスエリアのような屋外の売店がいくつも設置されており、にぎわっていた。</p> <p>旧岩出山町時代に設立された第三セクターが指定管理者となっているが、指定管理料は無く、売上収入で運営費用の全部が賄われており、施設の修繕等もすべて会社負担で行われている。施設全体の売上は年間約17億円で、直営部分が約 14億円、テナント部分が約3億円とのこと。</p> <p>運営上の課題を訊ねると、合併前からの9つの施設を運営するそれぞれの第三セクターの在り方がいま現在も見直しがされず、運営面に不平等が生じており、将来への展望や設備投資にあたっての迅速性や主体性の在り方など、市との関係や対応などについて大いに懸念されていた。</p> <p>本市でも「道の駅朝日」の整備計画が進められており、来訪者の満足度を高め、リピーターを増やす取り組みについて、参考とすべき点が多く感じられた施設であった。</p>
--------	--